

参加プログラム：ディーキン大学

参加時の学年：2 年生 学部：人文 学科：ヨーロッパ文化

私が今回の留学プログラムに参加しようと思ったのは、英語を学び多様な人々と交流できるようになりたいと考えたためだった。元々他国の文化や生活様式に関心があり、そういった分野を学ぶ上で自身の語学力を上げることが大いに役立つと感じたためオーストラリアへの留学を決意した。こうした目標のため、留学中は授業に積極的に参加していた。また、授業後にはその日に学んだ英単語のリストを作成するなどして授業の復習を行った。



クラスには日本人留学生も多い中で英語を使う機会を自ら増やすことを意識した。具体的には、休み時間には他国の留学生に積極的に話しかけ会話を楽しむことと夕食の時間にはその日あったことをホストファミリーに話すといったことを行った。そして休日には外出し、同じ英語を学ぶ仲間とともに現地でしか出来ない貴重な経験を楽しんだ。こうした生活を送る中で特に印象に残ったのは、英語を学ぶ楽しさだった。授業はグループワークや様々なアクティビティを中心に行われ、生徒が主体となって意欲的に参加することが求められた。自分の強い意志から英語を学んだのは初めてのことだったが、こういった授業に積極的に参加することで強いやりがいや充実感を得ることが出来た。また、他国の留学生やホストファミリーとの会話を楽しむ中で互いの文化や考え方の違いを感じ、そういった違いをとっても興味深く感じた。

このように様々なことを学んだが、今回の留学プログラムで特に成長したのはスピーキングとライティングの能力だと感じている。私が所属していたクラスでは、グループでポッドキャストの台本を作成し録音まで行うというプロジェクトが評価対象の一つであった。映像が無く音のみで楽しめるポッドキャストを録音するためには、クリアな英語の発音や自然な抑揚と会話上のリアクションが必要不可欠だった。留学前は英語を話す機会をあまり持っていなかった自分にとって、こうしたことをやり遂げるのは非常に難しいことだった。しかしながら、一つ一つの単語の発音を調べて繰り返し練習しグループの仲間とアドバイスし合いながら何度も流れを確認することで、最終的には満足のいくポッドキャストを作り上げることが出来た。また、スピーキング力の向上には日常会話も大きく貢献したと感じている。

私の英語力は未熟で、話す英語も全く完璧では無かった。そして時々自分の伝えたいことを英語で表現することが出来ず困難を感じたこともあったが、とりあえず自分の知っている表現で話してみることが英語を話す力をつける上でとても重要で、自信を持てなくても話すことを怖がり躊躇する必要は無いということに気づくことが出来た。またライティングも評価対象の一つだったため、エッセイの書き方に関する授業も多くあった。英語のエッセイに関しては留学前の授業で何度か経験していたが、構造からよく使う表現についてしっかりと学び直し何度も練習することで、自身のライティング力を上げることが出来たと感じている。留学期間は短かったものの、英語力だけではなく様々な経験をして困難を乗り越えることで得られる精神的な成長も感じる事が出来た。今後はこの経験を活かし、生涯を通じて更なる語学力の向上と主体的な学びを目標に努力していきたいと考える。